

令和4年度
福岡市総合図書館の運営に関する評価

令和5年10月
福岡市総合図書館

福岡市総合図書館新ビジョン推進に関する点検評価会議委員名簿

(五十音順)

	所 属 等
上村 篤子	福岡市総合図書館運営審議会委員 (社会教育関係)
岡本 洋幸	公益財団法人九州経済調査協会 総務企画部次長兼BIZCOLI館長
白根 恵子	福岡市総合図書館運営審議会委員 (学識経験者)
増田 亜希子	福岡市総合図書館運営審議会委員 (家庭教育関係)
安永 行政	福岡市総合図書館運営審議会委員 (本市の住民)

○新ビジョン事業計画一覧表

図書館像	項目		内容	内部評価	外部評価
誰もが楽しめる 魅力ある図書館	図書資料の貸出・ 返却拠点の新設	1	分館の新設	A	A(4)B(1)C(0)D(0)
		2	貸出・返却拠点等の新設	B	A(0)B(5)C(0)D(0)
	利用時間の見直し	3	休館日、開館時間の見直し	B	A(1)B(3)C(1)D(0)
	図書館イベントの充実	4	図書館イベントの充実	B	A(2)B(3)C(0)D(0)
	快適な空間づくり	5	快適な空間づくり	A	A(2)B(3)C(0)D(0)
さまざまな情報を求める 市民に応える図書館	図書館サービスの充実	6	資料収集の充実	A	A(4)B(1)C(0)D(0)
		7	レファレンス(相談)サービスの充実	A	A(4)B(1)C(0)D(0)
		8	課題解決型支援の充実	A	A(4)B(1)C(0)D(0)
	地域読書活動への支援	9	団体貸出先の拡大	B	A(1)B(4)C(0)D(0)
		10	地域読書活動への支援	A	A(4)B(1)C(0)D(0)
市関連施設の図書室 の相互協力	11	市施設の図書室との相互協力	B	A(1)B(4)C(0)D(0)	
子どもと本をつないで 豊かな心を育む図書館	子どもへの読書普及	12	モデル児童図書目録の配布	A	A(5)B(0)C(0)D(0)
		13	子どもの貸出カード作成推進	B	A(0)B(5)C(0)D(0)
		14	ヤングアダルト層(12歳～18歳)への働きかけの強化	B	A(2)B(3)C(0)D(0)
		15	読書活動ボランティア講座の強化	A	A(5)B(0)C(0)D(0)
	学校図書館への支援	16	学校図書館支援センターの充実	A	A(5)B(0)C(0)D(0)
総合図書館の特色を 生かした図書館	映像資料部門の充実	17	図書館外施設での映像資料上映事業	A	A(5)B(0)C(0)D(0)
		18	資料展示事業	B	A(0)B(5)C(0)D(0)
	文書資料部門の充実	19	文書資料のデジタルデータ化・情報提供の充実	B	A(1)B(4)C(0)D(0)
		20	文学館の利用拡大	B	A(2)B(3)C(0)D(0)
効率的で効果的な 図書館運営	図書館運営の強化	21	運営方法の検討	A	A(5)B(0)C(0)D(0)
		22	図書館ボランティアとの共働の推進	B	A(1)B(4)C(0)D(0)
		23	職員の育成及び技術向上	B	A(2)B(3)C(0)D(0)
		24	施設の有効活用などによる財源確保	B	A(0)B(5)C(0)D(0)
	情報発信の推進	25	情報発信の推進	A	A(5)B(0)C(0)D(0)

<評価の基準>

福岡市総合図書館新ビジョン事業計画の取組状況については、下記の基準により評価を行っている。

判定	評価内容
A	計画どおり取り組み、内容も十分である。
B	ほぼ計画どおり取り組んでいるが、少し不十分な点がある。
C	計画どおりには取り組んでおらず、不十分である。
D	取り組んでいない。

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(総括)

福岡市総合図書館新ビジョン基本理念
市民がくつろぎ、本や人と楽しくふれあえる新たな学び・情報・交流の拠点となる図書館
利用者の高度化・多様化するニーズに対応できる資料・情報を提供する生涯学習施設として、また、内部空間だけでなく外部空間も含めて、快適な空間を最大限に活用することにより、これまで図書館を利用したことのない人なども集う場を創出し、多くの市民がくつろぎ、楽しさを共有できる新たな情報・交流の拠点となる図書館を目指します。

成 果 指 標

成 果 指 標	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
図書館利用者における 図書館サービスの満足度 【令和5年度:90%】 ＜総合図書館開館日＞	88.9% (+1.7)	—	85.4% (-)	89.7% (+4.3)	89.9% (+0.2)
	290日	271日	246日	221日	288日

※図書館サービスに関する調査3項目の満足度のうち、最も低い値を成果とした

※()は前年度からの増減

※令和元年度は利用者アンケート調査を実施せず。

目 標 数 値

目 標 数 値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①入館者数 【令和5年度:3,500千人】	—	2,627,641人	1,640,847人 〔-986,794〕 〔-37.6%〕	1,543,636人 〔-97,211〕 〔-5.9%〕	2,215,702人 〔672,066〕 〔43.5%〕
②個人貸出冊数 【令和5年度:4,800千冊】	4,108,973冊 〔-58,073〕 〔-1.4%〕	3,958,372冊 〔-150,601〕 〔-3.7%〕	3,251,539冊 〔-706,833〕 〔-17.9%〕	3,108,085冊 〔-143,454〕 〔-4.4%〕	3,923,418冊 〔815,333〕 〔26.2%〕
③貸出利用者数 【令和5年度:1,400千人】	1,214,402人 〔+3,106〕 〔+0.3%〕	1,178,884人 〔-35,518〕 〔-2.9%〕	949,860人 〔-229,024〕 〔-19.4%〕	897,574人 〔-52,286〕 〔-5.5%〕	1,156,751人 〔259,177〕 〔28.9%〕
④新規登録者数 【令和5年度:30千人】	24,712人 〔-1,495〕 〔-5.7%〕	22,528人 〔-2,184〕 〔-8.8%〕	16,558人 〔-5,970〕 〔-26.5%〕	18,648人 〔2,090〕 〔12.6%〕	21,363人 〔2,715〕 〔14.6%〕

※入館者数については、平成30年度は装置の不具合が判明したため非表示。

※〔 〕は前年度からの増減。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館

令和元年度 総合図書館のみ 令和2年2月27日から同年3月20日まで

令和2年度 総合図書館及び分館 令和2年4月4日から同年5月25日まで

令和3年度 総合図書館及び分館 令和3年5月12日から同年6月20日まで

※南市民センターの大規模改修工事に伴う、南図書館の長期休館

令和3年1月5日から令和4年8月26日まで

内 部 評 価	事業別評価	
<評価> 成果指標である「図書館サービスの満足度」は89.9%となっており、前年度と比べ微増ではあるが、非常に高い水準を保っており、目標の90%まで僅かな状況である。また、国の方針に基づき、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図ったことから、4つの目標数値すべて大幅にプラスに転じている。 事業別評価については、コロナ禍により縮小されていた事業について昨年度と比較して推進できた事業もあるが、コロナ前と同様の取組みができなかった事業も多く、昨年度と比べてマイナス評価となっている。 <対応> コロナ禍により公共施設が受ける影響も徐々に解消しつつあり、福岡市総合図書館新ビジョンの推進及び目標達成に向けて、計画的に事業を実施するとともに、図書館サービスの向上を図るための取組みを推進していく。	A評価	12事業
	B評価	13事業
	C評価	—
	D評価	—

外部評価

・コロナ禍の中、図書館業務、運営についてはご苦勞があったと推察する。その中で、サービスの満足度指数が高水準を保っていることは高く評価できよう。一方では、目標数値がすべてプラスに転じているとはあっても、新型コロナウイルス感染症以前の数値には及んでおらず、これからという印象があるのも事実である。利用者のニーズはコロナ禍を経て、また時代とともに大きく変化しており、高度な情報化社会へと転換しつつあるはずなので、その対応なども視野に入れた施策を構築する時期に来ていると思われる。

・おおむね計画通りに進んでいる。

・総合図書館ホームページへのアクセス件数、SNSでの発信件数、オンラインイベントへの参加者数なども積極的に公開し、デジタル時代の図書館職員の頑張りを数字として表現してはどうか。

・福岡市総合図書館新ビジョン基本理念には「交流の拠点となる図書館」と記載されているものの、交流拠点の実現にむけた評価項目は見当たらない。取組みの中には交流拠点形成につながる内容もあるため、記載を工夫するとよいだろう。

・withコロナは続いており、感染防止対策をとりながら様々な取組みをされていることは評価できる。人口増加に見合う予算の増額はされておらず、文化政策が不十分と感じている。未来は子どもたちにある。子どもたちのタブレット学習があたりまえになり、肉声による「ことば」の教育の機会が失われていっている。本は「ことば」でできている。まずは絵本を親子で楽しむことから始める、子どもの「ことば」と「こころ」を育むためのさらなる多様な取組みが図書館にも求められていると思う。

・工夫の上取り組まれていると思う。内部評価と大きく外れることはなかった。それでも内側からでは見えづらい場合は外からの声を積極的に取り入れ、検討が必要なこともあると感じた。また、年代によって利用コンテンツが違うため電子化にも力を入れてほしい。

・コロナ禍により減少していた利用状況も順調に回復傾向にあり、利用者満足度も高水準にある。今年度(令和5年)に期待している。

事業別評価

委員①		委員②		委員③		委員④		委員⑤	
A評価	12	A評価	18	A評価	7	A評価	14	A評価	14
B評価	13	B評価	7	B評価	17	B評価	11	B評価	11
C評価	0	C評価	0	C評価	1	C評価	0	C評価	0
D評価	0	D評価	0	D評価	0	D評価	0	D評価	0

<評価の基準>

福岡市総合図書館新ビジョン事業計画の取組状況については、下記の基準により評価を行っている。

判定	評価内容
A	計画どおり取組み、内容も十分である。
B	ほぼ計画どおり取組んでいるが、少し不十分な点がある。
C	計画どおりには取組んでおらず、不十分である。
D	取組んでいない。

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	図書資料の貸出・返却拠点の新設		
内容	分館の新設				
事業計画	早良南地域交流センターの2021年11月の開館に合わせて分館開館準備に取り組みます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	【早良南図書館】 開館準備			◇開館	
令和4年度					
計画	円滑な分館運営を行うため、指定管理者と協議を行いながら調整を図っていく。 また、指定管理による管理運営により、利用者満足度の高い図書館運営を目指す。				
取組状況	早良南図書館については、受付や接遇において利用者の評価が高く、また、近隣の公民館等での出張おはなし会や世代に合わせたイベント等を積極的に実施したり、個人登録者数や個人貸出冊数が目標値を超えるなど、指定管理による円滑な運営管理を行っている。 南図書館が8月27日にリニューアル開館し、特に混乱することなく開館後の運営が行われた。				
令和5年度					
計画	円滑な分館運営を行うことで、利用者満足度の高い図書館運営を目指す。 新たな市民センター等の建替改修等がある場合は、魅力のある分館づくりに努める。				

内部評価 (令和4年度)	
<p>早良南図書館は開館してから1年以上経ち、運営が安定しているとともに、利用者アンケート調査では、窓口サービス(あいさつ、接遇など)や総合評価について満足度が100%と評価が高いことからA評価とする。</p> <p>なお、南図書館のリニューアル開館においても、予定通り開館することができ、多くの市民の方に利用していただいている。</p>	A

外部評価 (令和4年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに進んでおり、内容も十分である。 ・早良南、南図書館ともに快適な空間でコンパクトに作られており、使い勝手がよい。また窓口対応もスムーズであり、高評価に値する。 ・R4年に改築開館した南図書館、R3年に開館した早良南図書館は開館後の運営も順調で、アンケートの満足度も高いことはおおいに評価できる。一方、老朽化した分館(中央図書館S55年、早良図書館S57年、博多図書館S58年)の改築は市民センターのリニューアル待ちとなっており、目途がたっていないため、B評価とした。 ・利用者が満足し、次の利用者を迎えてくれるような場所であるようで良いと思う。このような場所が自分の住まいからいつもの交通手段で行けるような場所があると更に満足度も上がると思う。 ・早良南図書館、南図書館ともに順調に運営されており、喜ばしい。欲を言えば、図書館のスペースがもう少し広げればと思う。高齢者から乳幼児まで、それぞれがゆったり過ごせるとさらに良い結果が得られるのでは。特に夏休み、自由研究や宿題のために図書館を利用する児童も多いのでは。 	<p>A : 4</p> <p>B : 1</p> <p>C : 0</p> <p>D : 0</p>

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	図書資料の貸出・返却拠点の新設		
内容	貸出・返却拠点等の新設				
事業計画	利用者の利便性の向上を考慮し、交通の便の良い公共施設等における図書の貸出・返却拠点の設置を推進します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	検討、協議				
			◇設置		
令和4年度					
計画	既設の貸出・返却拠点等の維持に努めるとともに、市の施設、民間施設への具体的な拠点設置に向けて、関係部署、関連民間企業等との協議を進める。				
取組状況	令和5年2月末日に返却拠点の一つであった地下鉄西新駅構内「ハートフルショップmomo」が閉店したことに伴い、同施設での図書返却サービスが終了したが、西新駅の構内に返却ポストを新たに設置してもらうことについて、地下鉄事業者と協議をすすめた。				
令和5年度					
計画	引き続き、既設の貸出・返却拠点等の維持に努めるとともに、市の施設、民間施設への具体的な拠点設置に向けて、関係部署、関連民間企業等との協議を進める。				

内部評価 (令和4年度)	
既設の貸出・返却拠点等の維持に努めた。 諸事情により西新駅構内の返却拠点が廃止となったが、地下鉄事業者と協議を実施し同じ西新駅構内で返却拠点を設置する見通しが立ち返却拠点数を維持することができる見込みとなった。 新たな拠点の設置については検討中であるが、具体的な設置は進んでいないことからB評価とする。	B

外部評価 (令和4年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・西新駅での返却拠点については、もう少しスピードのある調整ができないか。地下鉄事業者と総合図書館は同じ市の組織である。返却拠点廃止の方向性が決定した時点で、地下鉄事業者に新しい設置場所の提案を求め、協議・設置を進めるべき。 ・福岡市の規模を考えると、返却拠点が少なすぎるのではないか。公民館や公共の施設などにも設置する方向を具体的に探りたいものである。 ・福岡市の人口は増え続けている。貸出返却拠点の新設は長年の課題であるが、いまだに検討の域にとどまっている。次年度こそ、予算の確保と課題解決の新たな一歩が望まれる。 ・回収する手間など考えることも多いが、返却⇒貸出のサイクルが早まる手段だと思うので、返却拠点設置はぜひ計画を進めてほしい。 ・交通の便の良いところに返却拠点が増設されると、延滞が少なくなると思われる。福岡市は人口が多く、一つの区でも中規模の市と同等の人口を有する。分館から遠い地域の公民館を分室扱い(人員配置も含む)にできると良いと思われる。 	A : 0 B : 5 C : 0 D : 0

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	利用時間の見直し		
内容	休館日、開館時間の見直し				
事業計画	図書館分館ごとの市民ニーズ等に基づき、休館日と開館時間の見直しを検討します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	【休館日】				
	検討	段階的に実施			
	【開館時間】				
検討	段階的に実施				
令和4年度					
計画	令和3年度実施できなかった市政アンケート及び利用者アンケートの結果、東図書館、早良南図書館での実施状況、成果を検証し、継続的に検討を行う。				
取組状況	市政アンケートを実施し、過去1年間に図書館を1回利用した市民、ならびに全く利用しなかった市民に対して利用しない理由を尋ねたところ、主な理由として「時間がない」(33.0%)、「本は購入して読みたい」(25.1%)が挙げたが、「利用したい時に開いていない」は6.6%にとどまった。また、図書館が実施した利用者アンケート調査(令和5年5月)の結果では、「開館時間及び休館日」についての評価は、満足度89.9%であった。東図書館と早良南図書館は他の分館よりも休館日を少なく、開館時間を長くし、運営を行っている。				
令和5年度					
計画	引き続き、利用者アンケートの結果、東図書館、早良南図書館での実施状況、成果を検証し、継続的に検討を行う。				
内部評価 (令和4年度)					
市政アンケートの結果、普段利用していない市民にとって、開館日や開館時間の見直しに対するニーズは高くないこと、また、図書館利用者アンケートの結果、満足度は高水準を維持していることが分かった。 ただ、市民ニーズに沿った開館時間の設定については、引き続き東図書館と早良南図書館の成果を検証し継続的な検討が必要なことからB評価とする。					B
外部評価 (令和4年度)					
<ul style="list-style-type: none"> ・「開館日」「開館時間」等の見直しの議論を深めるには、図書館を利用していない市民へのアンケートを充実させる必要がある。 ・閉館時間について、市民の活動拠点に近い分館での、延長を検討していただきたい。 ・普段、利用していない市民が来館したくなるような図書館を目指すことが肝要なのではと思う。東図書館、早良南図書館での取り組みの成果をいかし、交通の便のよい分館をモデルケースとして利用時間延長を行い、館内レイアウトの見直しなども合わせて、利用者増に取り組んでみてはどうか。 ・引き続き、利用者・非利用者の声を聞き、週一回程度の特別開館の日時を設けてみてはどうか。 ・他館より、開館日・開館時間が多い東・早良南図書館の利用状況が好調であることから考えると、やはり開館日・開館時間と利用の関連は深いと思われる。 					A : 1 B : 3 C : 1 D : 0

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	図書館イベントの充実		
内容	図書館イベントの充実				
事業計画	子ども向けのおはなし会や体験講座、大人向けの講座など、幅広い層に向けて多様なイベントを実施し、これまで図書館を利用していなかった層への訴求や、参加者の満足度の向上を目指し、引き続き、読書の普及や図書館の活用促進を図ります。 また、市の関連部署と連携したイベント、総合図書館の映像資料部門や文書資料部門、各分館との連携による企画を実施していきます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	幅広い層へのイベント実施				
令和4年度					
計画	新型コロナウイルス感染症の状況や対策に十分に配慮しながらも、総合図書館及び分館において、共通テーマで選んだ各館の蔵書を10月に一斉展示する「図書館マンス」をはじめ、「こどもの読書週間」や「読書週間」などを中心に昨年実施できなかった事業をはじめとする読書普及につながるイベントを企画・実施する。また、大人やヤングアダルトを対象とした読書イベントを企画・実施する。絵本月間を12月に創設し、読書フォーラムを中心とした読書普及イベント等を実施する。				
取組状況	新型コロナウイルス感染症の状況や対策に十分配慮しながら「図書館マンス」の「図書館TRAVEL」をはじめ、「こどもの読書週間」でのイベント、おはなし会の開催、SDGsの関連本展示や起業・経営相談会など課題解決型支援を行った。また、中学生を対象としたSDGsに関するワークショップでは身近で具体的な社会課題を選び、図書館資料やタブレットを使って現状を調べ、解決策が提案された。高等学校ビブリオバトル福岡県大会では14校が参加して「読みたくなる本」の紹介が熱心に行われ会場が盛り上がった。コロナ影響下で関係各所の協力を得て、でき得る限りイベントの実施に努め、令和3年度よりもイベント開催が増加した。また、こども図書館での調べ学習に役立ててもらうため、図書館の利用の仕方を教える動画配信をYouTubeで行うなど、代替策の工夫に努めた。 12月に絵本月間を創設し、各館において、さまざまな「おはなし会」、絵本づくり、工作、絵本展示などを行い、読書行事には合計1,295名の参加があった。 ・読書行事等イベント 総合図書館・分館 778回 14,268人 (令和3年度 238回 4,151人) ・展示 総合図書館 130回 (令和3年度 135回)				
令和5年度					
計画	新型コロナウイルス感染症の状況や対策に十分に配慮しながらも、総合図書館及び分館において、共通テーマで選んだ各館の蔵書を10月に一斉展示する「図書館マンス」をはじめ、「絵本月間」、「こどもの読書週間」、「読書週間」などを中心に読書普及につながるイベントを企画・実施する。また、大人やヤングアダルトを対象とした読書イベントを企画・実施する。				
内部評価 (令和4年度)					
新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、オンラインや動画配信も活用してできるだけイベントの実施に努め、読書活動の促進や情報発信に取り組むことができたが、当初の計画と比べて十分ではなかったことからB評価とする。					B
外部評価 (令和4年度)					
・取組内容は幅広く、YouTubeなどを活用して積極的に情報発信をしている。コロナ禍でも、イベントを充実させたい担当者の熱意がうかがえる。 ・さまざまなイベントが実施されたのはA評価に値すると思われるが、ヤングアダルト層へのアプローチが弱い気がする。 ・感染症の状況を見つつ対策をしながら、分散開催やオンライン開催、動画配信を活用するなど、工夫して取り組みを行っていることは評価できる。さらなる取り組みを求める。 ・様々な年代に合わせたイベント企画を評価させていただきます。 ・コロナ禍の中、よく取り組まれたと思う。					A : 2 B : 3 C : 0 D : 0

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	快適な空間づくり	
内容	快適な空間づくり			
事業計画	<p>やすらぎや交流の場といった、初めての来館者も過ごしやすい環境の創出など、大幅な館内レイアウトの変更について、施設設備の大規模更新による休館(6カ月程度)にあわせて行うこととし、長期保全計画に基づく設備更新を計画的に推進します。</p>			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	令和4年度			
計画	<p>引き続き、計画的に設備更新工事を実施する。 新型コロナウイルス感染症対策による全市的な工事の時期等の見直し指示等を踏まえ、更新工事の工程や工事期間中の館内体制等、工事実施時における課題を検討する。</p>			
取組状況	<p>長期保全計画に基づき映像ホールシネラ舞台機構吊物設備改修工事、地域熱供給熱交換器の洗浄整備を行った。 令和6年度の全館空調設備更新工事の工程や工事期間中の館内体制等、工事実施時における課題を検討した。</p>			
令和5年度				
計画	<p>引き続き、計画的に設備更新工事を行う。 令和6年度に実施する、休館を伴う全館空調設備更新工事に向けた実施設計を行い、休館が必要な範囲・期間、工事期間中の運営体制等について検討を行う。</p>			
内部評価 (令和4年度)				
<p>長期保全計画に基づき計画的に設備更新工事を実施できた。 令和6年度の全館空調設備更新工事の工程や工事期間中の館内体制等、工事実施時に向けた課題を検討し、令和5年度の設計に反映するための基本情報とすることができたためA評価とする。</p>			A	
外部評価 (令和4年度)				
<p>・計画通りに進んでいる。 ・新設、および改修図書館と比較して本館の老朽化は否みがたいが、設備保全についてはよく努力されている。それはそれとして気を配るべきポイントはあろうかと思われる。たとえば中庭はどうだろう。あの空間は生かされているだろうか。たとえばVHSが開架している空間は、図書館全体の中でどう解釈すべきか迷うところである。掲示物のレイアウトなども工夫がほしい。また動線の確保が検討されていないと感じる。 ・設備更新工事は計画に基いて実施されているが、館内レイアウトについてのトータルデザインや具体的な図面などは示されていないため、B評価とした。 ・各地域の図書館はスペースが狭いことから、展示や配置に工夫が必要だと思われる。見慣れてくるとそのままになりがちなので、定期的に外からの意見を取り入れてみては。 ・永く市民に親しまれるよう、今後も施設・設備の適切なメンテナンスを計画的に実施していただきたい。</p>			<p>A : 2 B : 3 C : 0 D : 0</p>	

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	図書館サービスの充実			
内容	資料収集の充実					
事業計画	公共図書館としての役割を発揮するため、前期で見直した図書資料の収集方針に沿って資料収集を行い、市民ニーズに応えるよう努めます。 また、電子書籍の取り扱いについて、業界や他都市の動向を踏まえて、検討を継続していきます。さらに、収集した資料を幅広く活用できる方策を検討していきます。					
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	資料収集方針に沿った資料収集					
令和4年度						
計画	市民ニーズに対応しながら、総合図書館及び分館の収集方針に沿って資料収集を行っていく。また、電子図書館のコンテンツ充実に努める。					
取組状況	公共図書館としての役割を発揮するため、総合図書館及び分館の収集方針に沿って資料収集を行うとともに、市民ニーズに応えるよう、予約待ち人数の多い図書の複本購入等を実施した。 電子図書館については、本館・分館読書相談員全員で選書を行い、利用者ニーズの高いコンテンツの収集に努めた。(コンテンツ数: 令和3年度末9,643点 ⇒ 令和4年度末10,852点)					
令和5年度						
計画	市民ニーズを測りながら、総合図書館及び分館の収集方針に沿って幅広く資料収集を行う。また、電子図書館の選書も本館・分館で分担して行い、バラエティに富んだコンテンツの充実に努める。					

内部評価 (令和4年度)	
限られた予算の中で総合図書館及び分館の資料収集に努め、予約待ち人数が多く市民ニーズが高い図書の複本購入等も実施した。また、電子書籍については市民ニーズに応えるべく選書を進め、コンテンツを順調に増やしたことからA評価とする。	A

外部評価 (令和4年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに進んでいる。 ・電子書籍が徐々に充実してきたことは評価できよう。ただ、市民のニーズだけに応えるのがベースなのは絶対的なものか、検証が必要だろう。たとえば年鑑などの充実は図書館の使命であると思われる。 ・市民のニーズをはかりながら、資料収集が行われていることは評価できる。児童書に関してはニーズに合わせることも大切だが、長い間子どもたちに読み継がれてきた良書を本館にも分館にもそろえて手にとれるようにしておくことが大切である。⑫にも関連するが、モデル児童図書の収集が不十分と考える。 ・要望の高いものへの対応を評価させていただきます。季節ごとのイベントに関するものはいつも争奪戦なので、副本の購入のご検討を。 ・限られた予算の中で、努力されている。予算の増額を望む。 	A : 4 B : 1 C : 0 D : 0

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調査(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	図書館サービスの充実		
内容	レファレンス(相談)サービスの充実				
事業計画	窓口、電話、文書、電子メールによるレファレンスを実施するとともに、レファレンス情報のホームページでの提供を進めます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	レファレンスサービスの実施				
	令和4年度				
計画	レファレンスについて、窓口での対面など従来の方法に加え、HPや電子メールなどデジタル化を進める。				
取組状況	<p>窓口、電話、文書、電子メールによるレファレンスを実施し、令和4年度の主題別部門及び文書資料部門のレファレンス件数は合計で25,491件となった。</p> <p>利用者が来館しなくてもサービスが利用できるよう国立国会図書館のレファレンス協同データベースを活用して、当館のHP上でレファレンス事例を参照できるようにしている。HPの「テーマ資料」のタブには利用者の関心が高いSDGsや中高生向けなどのテーマについて、お勧めの図書を紹介した。なお、「テーマ資料」検索からは本の予約まで可能である。</p>				
令和5年度					
計画	HPにおけるレファレンス事例の周知を図るとともに、窓口、電話、文書、電子メールによるレファレンスの利用促進をより一層図っていく。				

内部評価 (令和4年度)	
ホームページでレファレンス事例を検索でき、またレファレンス自体も電子メールでやりとりを行うなど、レファレンスにおけるデジタル化の活用を図っていることからA評価とする。	A

外部評価 (令和4年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに進んでいる。 ・レファレンス業務は、今後とも図書館活動において重要なエレメントになると思われる。さまざまなルートを設定してあるものの、公共図書館におけるレファレンスの基本は対面ではないだろうか。そうした意味からも対面のレファレンス業務のさらなる充実が望まれる。「レファレンスだより」紙面を工夫していただきたい。 ・来館しなくてもレファレンスを利用できるようデジタル化の取り組みにより、件数が増加していることは評価できる。レファレンス担当の職員の専門性を高め、研鑽を積めるような取り組みが望まれる。 ・電話や窓口、ネットなど年齢や環境によって便利度が違う。そこに対応していることを評価させていただきます。 ・レファレンスサービスに代表される情報サービスは貸し出しと並んで図書館の基本的サービスである。特にファクトチェックの必要性が重視される現在、レファレンスを通して市民に貢献できるのではないだろうか。レファレンスサービスの存在をPRすることも必要である。 	<p>A : 4</p> <p>B : 1</p> <p>C : 0</p> <p>D : 0</p>

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調査(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	図書館サービスの充実		
内容	課題解決型支援の充実				
事業計画	ビジネスや医療、子育て支援などの課題解決に対して、関係部局及び国・県等と連携を図りながら、図書館資料を活用した展示や講演会、相談会等を行っていきます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	医療・ビジネス・子育て支援等の情報提供				
令和4年度					
計画	新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を行いながら、関係部局や関係機関等と協力して、医療、ビジネス、行政などの課題解決支援として、図書館資料を活用した情報提供や関連事業を実施する。				
取組状況	<p>ビジネス支援として、中小企業診断士による起業・経営相談会を開催し、相談件数が増加した。</p> <p>医療支援として、総合図書館、分館で九州がんセンターや済生会福岡総合病院から医師等を講師として招き講演会を実施した。</p> <p>電子図書館で、健康医療に関するコンテンツを提供するとともに、HPの「テーマ資料」検索を活用し、がん情報に関する本を紹介した。</p> <p>行政支援として、「SDGs」や「選挙と政治」、「世界水泳」などをテーマとして、市の関係部局と連携して展示を行い、関係の本の紹介やパンフレットの配布し、情報提供を行った。また、福岡法務局と連携して相続と遺言に関する展示を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起業・経営相談会 総合図書館・分館 77回（令和3年度 23回）、相談36件（令和3年度 5件） ・医療に関する講演会 総合図書館・分館 2回 参加 52人（令和3年度 1回 参加 3人） 				
	令和5年度				
計画	医療、ビジネス、行政、国などの課題解決支援として、市の関係部局・機関および外部の機関等と連携して展示を行うなど、図書館資料を活用した情報提供や関連事業を実施する。				
内部評価（令和4年度）					
<p>新型コロナウイルスの感染状況が収束に向かいはじめたことに伴いがん講演会を実施することができ、起業・経営相談会の開催回数を増やすことができた。一方、行政支援として、SDGs等の関連書籍の展示やHPでの紹介とともに、電子図書館やHPのテーマ資料検索などデジタル化により健康医療関係の本を紹介した。福岡法務局と連携して展示を行うなど、積極的に取り組みを進めたことからA評価とする。</p>					A
外部評価（令和4年度）					
<p>・計画通りに進んでいる。外部連携などでの図書館職員の奮闘ぶりがうかがえる。利用者の声として、例えば「総合図書館への相談がきっかけで、起業することができました」のような事例公開があると、図書館利用者の獲得につながる。</p> <p>・新型コロナ感染症が蔓延していた昨年、一昨年との比較はあまり意味がないように思われるが、まずは実施されはじめたことは評価してよい。特に医療関係の講演会は意義深い試みであろうと思われる。</p> <p>・講演会がリアル開催できない時の手立て（リモート開催も併用するなど）が必要ではないかと考える。また、事業計画には「医療・ビジネス・子育て支援等の情報提供」とうたわれているが、報告には子育て支援への取り組みがひとつも上がっていない。</p> <p>・電子図書館などと組み合わせたの取り組みを評価させていただきます。</p>					A : 4 B : 1 C : 0 D : 0

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	地域読書活動への支援		
内容	団体貸出先の拡大				
事業計画	地域の読書活動の拠点である地域文庫や学校、高齢者福祉施設等への団体貸出を実施し、団体貸出サービスの充実を図ります。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	団体貸出先の拡大				
令和4年度					
計画	登録団体数は、令和5年度目標の420団体を達成したが、公民館の登録は公民館全体の約半数であり、地域での貸出機会の拡大を目指し、さらに登録数の増加に向けた取り組みを進める。				
取組状況	読書活動ボランティア講座等の催事機会に団体貸出制度の案内を行うなどの取り組みを行い、団体貸出の登録団体は令和4年度末時点で454団体となり、令和3年度に比較して13団体増加した。このうち、公民館の登録は75館で4館増加し登録率52%、放課後児童クラブの登録は130か所で1か所増加し登録率94%となった。 また、登録団体に対し、新着本の紹介等を行い、貸出図書のさらなる利用の促進に努めたが、配本冊数は、令和4年度179,505冊(令和3年度183,980冊)で前年度より約2.4%減少した。				
令和5年度					
計画	令和5年度は460団体の登録を目標に、地域での貸出機会の拡大を目指し、公民館の登録数の増加に向けた取り組みを一層進める。				

内部評価 (令和4年度)

令和5年度目標の420団体登録を達成できたが、配本冊数は減少したことからB評価とする。	B
---	---

外部評価 (令和4年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・概ね計画通りにできている。 ・地域に密着する公民館の登録が半数なのは改善すべきであろう。 ・団体登録数が増えていることは評価できる。 ・配本冊数増には魅力的な資料が必要であり、予算の確保を求める。 	A : 1 B : 4 C : 0 D : 0
--	----------------------------------

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	地域読書活動への支援		
内容	地域読書活動への支援				
事業計画	地域において読書活動を行っている団体の活動状況を調査してニーズを把握するとともに、公民館や留守家庭子ども会等を訪問して、活動や環境整備への助言や支援等を行います。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
令和4年度					
計画	地域における読書ボランティアの活動の支援及び公民館における子どもの読書活動の推進に重点的に取り組むため、公民館の運営を支援する部署などの関係各課と連携して、文庫活動の活性化を図るとともに、文庫間の交流については、コロナ影響下においても工夫に努め促進する。				
取組状況	<p>地域における読書ボランティアの主要な活動拠点となっている公民館や学校を訪問し、活動状況を確認し定期情報紙「子どもと本の日通信」や「学校図書館支援センターだより」、ホームページ等で発信するとともに、公民館の運営を支援する部署と連携し、団体貸出における公民館の登録数を令和3年度と比較し4団体増やし75団体とした。</p> <p>さらに、公民館では親子を対象にスタンダード文庫を活用した読み聞かせ講座を開催した。(24館、347人) また、地域文庫の活動拠点を掲載し配付していた地域文庫マップについて、各文庫の現在の活動状況等も紹介したものに改め、各文庫の相互交流に役立つものとした。</p>				
令和5年度					
計画	地域における読書ボランティアの活動の支援及び公民館における子どもの読書活動の推進に重点的に取り組むため、スタンダード文庫の地域住民への周知や公民館の運営を支援する部署と連携した公民館の団体貸出登録の促進に努める。				
内部評価 (令和4年度)					
地域読書活動に関する情報発信やスタンダード読み聞かせ講座の実施、文庫間交流の支援を進めるとともに、団体貸出を行う公民館の拡大が図れたことからA評価とする。					A
外部評価 (令和4年度)					
<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに進んでおり、内容も十分である。 ・ほぼ計画通りであったためA評価とする。 ・公民館での、スタンダード文庫読み聞かせ講座の開催は評価できる。乳幼児とその保護者向けの講座は重要である。さらに、小学生の保護者向けの読み聞かせ講座が各区で開催されると本好きの家族が増えることが期待できると考える。また、読書ボランティア講座も総合図書館だけではなく、分館や公民館などでの開催の必要性も感じられる。 ・ボランティアに参加したい方への良い取り組みだと思う。 					A : 4 B : 1 C : 0 D : 0

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	市関連施設の図書室の相互協力		
内容	市関連施設の図書室の相互協力				
事業計画	引き続き、議会図書室、科学館及びふくふくプラザとの相互協力を実施するとともに、今後とも市関連施設との連携について検討していきます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	相互協力の実施				
令和4年度					
計画	議会図書室、科学館及びふくふくプラザ各図書室との相互協力を継続し、議員や職員、市民への周知を図る。				
取組状況	市議会議員及び行政職員の調べもの支援のため、議会図書室を通じて図書資料の貸出を実施した。また、福岡市科学館のサイエンスナビ(図書室)において、図書資料の貸出・返却を実施するとともに、ふくふくプラザでは図書資料の返却を実施した(福祉図書・情報室窓口での返却受付、施設入口に返却ポスト設置)。各施設においては、相互に利用周知を図った。				
令和5年度					
計画	引き続き、議会図書室、科学館及びふくふくプラザ各図書室との相互協力を継続するとともに、議員や職員、市民への周知を図る。				

内部評価 (令和4年度)	
議会図書室、科学館及びふくふくプラザ各図書室との相互協力を行い、市関連施設との連携を継続実施できたが、利用周知はまだ十分とは言えないことからB評価とする。	B

外部評価 (令和4年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・概ね計画通りに進んでいる。 ・実施状況が外部には見えにくい運営業務であるが、内部評価自体も過去3年間B評価というのは対策が不十分なのではないか。 ・市の関連施設との相互協力が行われているように見受けられず、周知が十分ではないと考える。 ・催しに合った図書の特別貸出期間が合っても良いと思う。 	<p>A : 1</p> <p>B : 4</p> <p>C : 0</p> <p>D : 0</p>

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	子どもへの読書普及		
内容	モデル児童図書リストの配布				
事業計画	子どもたちやその保護者等が子どもの本を選ぶ目安として、各年齢層に応じた本を紹介したリストを配布し、子どもの読書推進に寄与します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	作成・配布				
令和4年度					
計画	令和4年度版のモデル児童図書リストを作成し、関係機関(保育園、小学校、公民館等)へ配付するとともに、「司書が選ぶ100冊の絵本」に掲載されている図書と併せて、こども図書館で展示を行い、貸出を促進する。				
取組状況	<p>モデル児童図書リストに掲載した図書の企画展示を行うとともに、モデル児童図書リスト(前年の受入図書の中から選定した本)を配付(約3,800部)し、カウンターでのレファレンスのツールとしても有効に活用した。</p> <p>また、令和3年度作成の「司書が選ぶ100冊の絵本」及び従来のモデル児童図書目録(S62年～H27年作成)に掲載された図書をできるだけ常設で展示し、貸出を行った。</p> <p>[参考]令和4年度モデル児童図書リスト掲載図書の、年間1冊当たりの貸出回数の平均</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児用133回 ・小学1・2年用100回 ・小学3・4年用62回 ・小学5・6年用28回 				
令和5年度					
計画	令和5年度版のモデル児童図書リストを作成し、関係機関(保育園、小学校、公民館等)へ配付するとともに、「司書が選ぶ100冊の絵本」に掲載されている図書と併せて、こども図書館での常設展示や12月の絵本月間期間中の集中広報などを行い貸出を促進する。				

内部評価 (令和4年度)	
モデル児童図書リストの配付、モデル児童図書の展示、紹介等を計画通り行い、掲載図書の貸出を促進することができたことからA評価とする。	A

外部評価 (令和4年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに進んでいる。多様な社会の実現にむけて、長期的には外国人の子供への配慮(外国語の本のリスト)も必要になるだろう。 ・児童への働きかけとしては十分評価できる。 ・モデル児童図書リストの作成、配布は評価できる。⑥に関連するが、モデル児童図書を選定しても手にとることができなければと思う。モデル児童図書の本のうち、半数が蔵書数一桁だった。高学年リストでは、1冊のみ蔵書の本が3タイトルある。蔵書を増やし、周知に努めてほしい。 	A : 5 B : 0 C : 0 D : 0

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	子どもへの読書普及	
内容	子どもの貸出カード作成推進			
事業計画	図書館の貸出カードを所有していない児童を対象として、貸出カードの作成を推進することにより、読書の普及等を図ります。			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	検討, 協議	実施		
令和4年度				
計画	図書館催事や講座、団体貸出、学校訪問等の機会を捉え、図書館の貸出カードの作成を促す声かけに努める。毎年実施している小学生読書リーダー養成講座は、令和4年度においても動画等の資料により、「福岡TSUNAGARU Cloud」を活用した実施を各小学校に依頼することとし、その際に併せて貸出カードの作成案内を行う。			
取組状況	徐々に再開された小学生の図書館見学や、各小学校に実施を依頼している動画等の資料による「福岡TSUNAGARU Cloud」を活用した、小学生読書リーダー養成講座(45校1,192名が参加)等において、貸出カードの作成案内を行った。また、学校図書館支援センターによる学校図書館訪問時に、図書館の利用案内とともに貸出カードの作成案内を行った。			
令和5年度				
計画	図書館催事や講座、団体貸出、学校訪問等の機会を捉え、図書館の貸出カードの作成を促す声かけに努める。特に、小学生読書リーダー養成講座は「福岡TSUNAGARU Cloud」を活用した各小学校での実施により受講者数の増加が期待でき、その際に併せて貸出カードの作成案内を行う。			
内部評価 (令和4年度)				
新型コロナウイルス感染症対策により、積極的な推進はできなかったが、小学生読書リーダー養成講座の小学校での実施などの機会を捉えて、貸出カードの作成案内に努めたことからB評価とする。				B
外部評価 (令和4年度)				
<ul style="list-style-type: none"> ・概ね計画通りに進んでいる。 ・昨年の内部評価と文言がほとんど変わらず、改善が見られない。具体的な数値目標が必要なのではないか。 ・分館と連携し、地域の読書ボランティアの協力も得て、取り組むことが必要ではないかと思う。 ・学校の図書が充実していると進めづらいとは思いますが、新しい図書の発見は必要なことなので、ぜひ進めてほしい。 				A : 0 B : 5 C : 0 D : 0

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	子どもへの読書普及	
内容	ヤングアダルト層(12歳～18歳)への働きかけの強化			
事業計画	広報やイベントを充実させるとともに、中高生に訴求する資料収集を進めます。			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
令和4年度				
計画	電子図書館を活用しヤングアダルト向けに図書の紹介を行うとともに、ヤングアダルト層を対象とするイベントを実施し、図書館の利用促進につなげる。			
取組状況	<p>ヤングアダルト向けの図書の収集やお勧め本リストの配布など従来の方法に加え、電子図書館を活用し、ヤングアダルト向けの特集を組みコンテンツを提供した。また、HPの「テーマ資料」検索において関連書籍を紹介した。</p> <p>また、高等学校ビブリオバトル福岡県大会には14校が参加して、高校生が知的書評合戦を熱く繰り広げ盛況となった。</p> <p>さらに、大学の学生団体との共催で、中学生を対象としたSDGsに関するワークショップを開催し、図書資料を活用して中学生が課題に取り組んだ。</p>			
令和5年度				
計画	ヤングアダルト向けに電子図書館等を活用して図書の紹介を行うとともに、ヤングアダルト層を対象とするイベントを実施し、図書館の利用促進につなげる。			

内部評価 (令和4年度)

電子図書館によるヤングアダルト向けのコンテンツの提供や高等学校ビブリオバトル福岡県大会の開催、中学生向けのワークショップの開催など様々な方法で読書活動の促進や情報提供に取り組んでいるが、中高生の図書カードの登録者増につながっていないことからB評価とする。	B
---	---

外部評価 (令和4年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りで、内容も十分である。内部評価の「中高生の図書カードの登録者増につながっていないことからB評価とする」については、図書カードの利用登録者の獲得には別のしかけが必要だろう。 ・結局のところ、読書好きの中高生対象にとどまり、広い文化資源の宝庫としての図書館の存在をアピールすることができていないのではないかと。ビブリオバトルの運営についても改善の余地がある。 ・ヤングアダルト層をターゲットにした様々な取り組みをしていることは評価できるが、一部の読書好きの中高生向けイベントの感が否めないと思われる。もっと、広くアピールできる取り組みが求められる。 ・ヤングアダルト層は電子のほうが取り組みやすいと思われる。中学生は全市一斉でタブレットを貸与、高校の多くはタブレット購入で入学。授業でも活用している電子コンテンツに絞っても良いのでは。 ・登録者増につながっていないのは残念だが、大変よく取り組んでおられる。気長に取り組んでもらいたい。小学生読書リーダー養成講座受講経験のある中学生・高校生対象にボランティアを募り、ヤングアダルト向けの各種取り組みに協力してもらうことはできないか。 	<p>A : 2</p> <p>B : 3</p> <p>C : 0</p> <p>D : 0</p>
---	---

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	子どもへの読書普及		
内容	読書活動ボランティア講座の強化				
事業計画	読書活動ボランティア講座を開催し、学校や地域等幅広いボランティアを養成して、地域の読書活動の推進に寄与します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	読み聞かせ講座の実施				
	ストーリーテリング講座・おさらい会の実施				
令和4年度					
計画	令和4年5月～6月に絵本の読み聞かせコース、9月～11月にストーリーテリングコースを実施する。講座受講修了者には、地域文庫MAPを配布し、地域活動への参加につなげる。				
取組状況	令和4年5月～6月に絵本の読み聞かせコース(4日間、定員40名)、9月～11月にストーリーテリングコース(4日間、定員40名)を実施し、延べ273名の参加があった。講座受講者には、福岡市内で活動している文庫団体の活動拠点及び活動状況を掲載した地域文庫MAPを配布し情報提供を行った。なお、地域文庫マップについて、従来の活動拠点のみの掲載に加え各文庫の現在の活動状況等を紹介し、ボランティア希望者と文庫のつなぎ、各文庫の相互交流に役立つものとした。				
令和5年度					
計画	令和5年5月～6月に絵本の読み聞かせコース、9月～11月にストーリーテリングコース、2月にスキルアップコース(新設)を実施する。講座受講修了者には、地域文庫MAPを配布し、地域活動への参加につなげる。				

内部評価 (令和4年度)	
令和4年5月～6月に絵本の読み聞かせコース、9月～11月にストーリーテリングコースを実施し、講座受講修了者には、内容を充実した地域文庫MAPを配布したことからA評価とする。	A

外部評価 (令和4年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに進んでおり、内容も十分である。 ・計画がほぼ実施されたと思う。 ・絵本の読み聞かせコース、ストーリーテリングコースともに充実の内容で高評価である。継続してほしい。 ・ボランティア活動したい方にとっても、充実した内容の取り組みだと思う。 	A : 5 B : 0 C : 0 D : 0

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	学校図書館への支援		
内容	学校図書館支援センターの充実				
事業計画	<p>前期での成果を踏まえ、総合図書館内に設置した学校図書館支援センターにおいて、市立小・中・特別支援学校の学校図書館への人的・物的支援を行い、学校司書の活動をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館への運営等に関する指導、助言 ・学校図書館の図書への選書や助言 ・学習支援用図書の貸出、学校司書への支援 				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	公共図書館司書の専門性を生かした学校図書館への支援				
	学習支援図書の貸出				
	学校図書館の活用・運営に係る情報収集と提供				
令和4年度					
計画	<p>学校現場の意向、要望に沿った支援をすすめると共に、学校図書館支援センター事業の認知、周知に努める。また、新設校の計画段階からの助言や、読書に困難がある児童・生徒のため、マルチメディアDAISY等の貸出資料の貸出を進めるなど事業の充実を図る。</p>				
取組状況	<p>令和4年度は85回の訪問を実施した。小学生用の学習支援用図書貸出については、62校から162回の利用があり6,434冊の貸出を行った。中学生用の学習支援用図書貸出については、2校から2回の利用があり、55冊の貸出を行った。</p> <p>市内小学校5・6年生を対象に「小学生読書リーダー」に認定する「小学生読書リーダー養成講座」について、学校と連携し「福岡TSUNAGARU Cloud」により動画等の資料を配信し、45校で実施があり、受講者1,192名全員を認定した。</p> <p>特別支援学校については、おはなし会やブックトークの実演、選書や配架の工夫、新設校の初期購入図書の選書など、具体的な支援を行った。また、特別支援学校高等部の卒業生を対象に図書館利用案内を作成し配付した。</p> <p>マルチメディアDAISYは、点字絵本やLLブック等も含め「たっちるつくセット」として小学校1校に貸出を行った。</p>				
令和5年度					
計画	<p>学校現場の意向、要望に沿った支援及び定期的な支援をすすめると共に、学校司書未配置校の支援、新任司書への研修支援、新設校の計画段階からの助言、読書に困難がある児童・生徒のための資料の貸出を進めるなど事業の充実を図る。</p>				

内部評価 (令和4年度)	
<p>中学校向け支援の利用は少ないが、小学校向け支援については貸出利用や、相談、要請訪問、計画訪問など年度を通して実施した。特別支援学校向け支援については各校の状況に応じた支援に努めた。全般的に事業の認知と活用が進むとともに新設校などの学校図書館整備への助言や初期購入図書の選書も行ったことからA評価とする。</p>	A

外部評価 (令和4年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りで、内容も十分である。 ・昨年度と比較して、学習支援図書の貸出が若干減少している(新型コロナ感染症の影響もあろう)。中学校への支援が改善されてもいように見受けられる。 ・小学校、特に特別支援学級への支援、周知が進んでいることは評価できる。学校司書の配置が不十分(5校にひとり)なことが、図書館の支援の効果を限定的にしている残念である。 ・デイジーの取り組みは徐々に広がっているように思われる。また支援学校への取り組みも評価できる。 ・支援活動はよく取り組まれている。図書館で解決できる問題ではないが、学校司書一人で5校担当している、学校司書としての機能は果たせない。担当校数を減らす働きかけを望む。 	<p>A : 5</p> <p>B : 0</p> <p>C : 0</p> <p>D : 0</p>

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	総合図書館の特色を生かした図書館	項目	映像資料部門の充実		
内容	図書館外施設での映像資料上映事業				
事業計画	収集した映像資料についてさまざまな手法を用いて市民等に提供することで、効果的な図書館の映画保存事業のアピールを行います。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	手法検討	上映事業の実施			
令和4年度					
計画	11館の公民館において上映会を予定(4月1日現在)しているが、他の公民館についても利用を打診するなど、上映会の開催数を増やしていく。 過去のアジアフォーカス・福岡国際映画祭観客賞受賞作品を中心に、2作品程度選定して、著作権処理、ブルーレイディスク制作を行い、上映可能作品を増やしていく。				
取組状況	年度当初までに申し込みがあった11館の公民館と上映会の日時や上映作品について協議・調整を行うとともに、事業の周知・PRに努めた結果、追加での上映希望があり、令和4年度は、17館で、のべ18回の上映会を開催し、のべ424人の市民の参加があった。 また、アジア映画のブルーレイディスクを3作品制作し、上映会に活用できる作品を10作品とするなど、事業の充実に務めた。				
令和5年度					
計画	これまで希望がなかった博多区、城南区も含め全ての区の公民館29館で上映会を開催する。 上映会に活用する作品を2作品程度選定し、ブルーレイディスク制作を行い、上映可能作品を増やしていく。				

内部評価 (令和4年度)	
<p>事業の周知・PRに務めた結果、当初予定の11館から、17館の公民館で、のべ18回上映会を開催することができ、より多くの市民にアジア映画に触れる機会を提供することができた。 著作権者との交渉を進めるとともに、映像事業に関する寄付を確保するなどした結果、3作品ブルーレイディスクを制作し、上映可能作品のラインナップを増やすことができた。 観覧者のアンケートでも、総合図書館は行ったことがないと回答された方が多く、身近な公民館で見れてよかったという意見、アジアの映画は見たことがなかったが、共感したといった意見もあり、総合図書館での上映に比べ、幅広い層の方に楽しんでいただけたことが伺える。 以上のことからA評価とする。</p>	A

外部評価 (令和4年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに進んでおり、内容も十分である。 ・徐々に裾野が拡大しているのが見られ、さらなる充実が期待される。 ・幅広く市民に映像資料を提供できる貴重な機会であり、計画が進んでいることは高評価である。さらに、親子で楽しめるような作品の上映が望まれる。 ・いつも利用する場所でのイベントは喜ばれると思う。広がってほしい取り組み。 ・公民館での上映会は良い取り組みだと思う。公民館自体のPRにもなり、制作国に関連した図書を公民館で展示などすれば、図書利用にもつながるのではないか。 	<p>A : 5 B : 0 C : 0 D : 0</p>

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	総合図書館の特色を生かした図書館	項目	映像資料部門の充実		
内容	資料展示事業				
事業計画	<p>展示事業をシネラの広報に限定せず、アジア映画のポスター展を中心に多様な展示を計画し、映像文化の普及・振興、市民サービスの促進を行います。場所はビデオライブラリーを使った展示空間の新設を検討します。</p>				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
令和4年度					
計画	<p>映像資料展示については、定例の上映映画ポスター展示に加え、映像ホール・シネラ内も使ったポスター展示、ビデオライブラリー内でのスチール写真展示、9.5mmパテベビー誕生100年を記念した映写機器の展示を行う。 展示空間の新設については、引き続き検討を進める。</p>				
取組状況	<p>映像資料展示については、エントランスにおいて、毎月の上映企画に沿ったポスター展示を実施するとともに、映像ホール内において、「アジア映画を観る一追悼 佐藤忠男」(11月)関連のポスター展示を行った。 また、9.5mmパテベビー誕生100年を記念して、シネラ内において、映写機、カメラ、フィルムの展示を6月～12月に実施した。 新たな展示エリアの検討に関しては、設備改修との調整など必要となる館内協議を進めた。</p>				
令和5年度					
計画	<p>上映企画に合わせたショーケース展示として、「安住の地を求めて」(4月)、「映画の中の食卓」(5月)のポスター展示を実施する。また、シネラエントランスでの上映企画に合わせたポスター展示を毎月実施していく。 新たな展示エリアの検討に関して、設備改修との調整を進めていく。</p>				
内部評価 (令和4年度)					
<p>「アジア映画を観る一追悼 佐藤忠男」(11月)では、企画上映に加え、ポスター展示、小冊子の作成など特に力を入れた内容となり、観覧(来場)者からの評価も高いものとなった。パテベビーの展示についても、12月25日に上映会へ発展させることができた。 展示空間の新設については、館内での調整にとどまった。 以上のことから、B評価とする。</p>					B
外部評価 (令和4年度)					
<p>・概ね計画通りに進んでいる。 ・展示空間は明らかに時代遅れである。抜本的な改修が望まれる。 ・展示空間のリニューアルのための予算を確保してほしい。 ・館外上映に併せてミニ資料展示も行ってみたい。</p>					A : 0 B : 5 C : 0 D : 0

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	総合図書館の特色を生かした図書館	項目	文書資料部門の充実		
内容	文書資料のデジタルデータ化・情報提供の充実				
事業計画	文書資料(歴史的公文書・行政資料・古文書資料・郷土資料)のデジタルデータ化・活用を進めるとともに、文学情報提供システムを拡張することにより、文書資料の情報提供システムを構築し、文書資料への理解と利用の促進を図ります。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	デジタルデータ化・活用の推進				
	デジタルデータの作成・蓄積, ホームページ掲載・展示・市民提供等				
	文書資料情報提供システムの構築(文学情報提供システムの拡張)				
	検討	システムの拡張・情報提供			
令和4年度					
計画	<p>広報紙「古文書だより」第2号の刊行とホームページへの掲載。 ホームページ「コレクション紹介」に古文書資料収蔵品を追加掲載。 古文書資料収蔵品データベースに、新たに整理・保存が終了した資料の目録データを掲載する。また、過去に発行した紙製本の目録に掲載したデータのうち、データベース未搭載のものを順次公開する。 昭和56年の開業から40年が経過し、また来年3月には七隈線天神南一博多間の延伸事業が完成する機会を捉え、「福岡市地下鉄の歩み」をテーマに歴史的公文書等の展示を実施する。</p>				
取組状況	<p>古文書資料に関する情報発信を目的とした「古文書だより」第2号を配布したほか、ホームページにも掲載した。 ホームページの「コレクション紹介」に3点の古文書資料を掲載した。 新たに収蔵した明治4年の山笠写真に関するパネル展示を行い、ホームページのデジタルアーカイブに追加した。 「古文書資料収蔵品データベース」に新たに3846点のデータをアップした。 開業から40年、七隈線天神南一博多間の延伸事業の完成に合わせて「福岡市地下鉄のあゆみ」展を開催、展示概要のしおりを配布したほか、ホームページにも掲載した。</p>				
令和5年度					
計画	<p>広報紙「古文書だより」第3号の刊行を行うとともに、ホームページ「コレクション紹介」及び古文書資料収蔵品データベースの更なる充実を図る。 世界水泳選手権2023福岡大会に合わせて、福岡のプールに関する歴史的公文書等の展示を実施する。</p>				

内部評価 (令和4年度)	
<p>古文書資料については、古文書資料収蔵品データベースへの目録データの追加掲載、古文書だより第2号の発刊、コレクション紹介への追加掲載など、昨年度に引き続き、更に内容の充実を図ることができた。また、古文書の山笠写真のパネル展示、公文書の福岡市地下鉄のあゆみ展については、記者投げ込みを行った結果、マスコミの取材があり、当館の文書資料について多くの市民等にアピールすることができた。 一方、資料のデジタルデータ化とその提供については、資料の保存と活用という両面から、今後とも調査・研究、検討を進めていく必要がある。 以上のことから、B評価とする。</p>	B

外部評価 (令和4年度)	
<p>・概ね計画通りに進んでいる。マスコミを活用した告知など積極的な姿勢がうかがえる。 ・「福岡市地下鉄の歩み」展はよい企画であった。しかしながら、展示するエリアについての検討が必要ではないか。せつかくよい企画があっても市民にどう見せるかの工夫がなされてもよい。 ・「古文書だより」刊行など、文書資料への理解と利用促進の取り組みは評価できる。資料のデジタルデータ化については予算を確保し、提供のあり方の検討を引き続き進めてほしい。 ・資料へのアクセス面や劣化の面からも、デジタルデータ化への検討はぜひ進めてほしい。</p>	A : 1 B : 4 C : 0 D : 0

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	総合図書館の特色を生かした図書館	項目	文書資料部門の充実	
内容	文学館の利用拡大			
事業計画	市民に認知され、利用しやすい文学館となるよう、事業の充実及び情報提供の強化による利用拡大を図ります。また、インターネットによる福岡ゆかりの文学情報提供システムを新たに構築します。			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	総合図書館HP等での情報提供の充実			
	企画展、常設展、文学講座等の情報提供の充実			
	企画展の開催、広報強化			
	企画展開催・報道機関等による広報強化			
	福岡ゆかりの文学情報提供システムの構築			
	構築	情報提供		
令和4年度				
計画	文学館事業として以下の事業を実施する。 企画展図録「ミステリーの女王 夏樹静子と福岡」のコンテンツをもとに写真展・パネル展の実施を検討 新テーマによる企画展示を福岡市文学振興事業実行委員会に諮り、実現を目指す。 常設展示「映画化された小説」を会期中展示替えを実施して開設 ももちはま草紙、読書講座等の文学講座を感染予防を徹底して実施し、文学館の認知度アップを図る。			
取組状況	夏樹静子分を含め過年度企画展図録の普及を継続した。 令和4年度企画展として「まなざしと記憶—宇野浩二の文学風景」を総合図書館1階ギャラリーにて開催するとともに、関連イベントとして宇野撮影の写真展「西海旅日記」、宇野研究者による関連講座2回、学芸員によるギャラリートークを実施した。 感染予防を徹底し、定例文学講座90回「山笠を昇く/書く—元博多っ子記者、大いに語る」を3年ぶりの祭りの開催に合わせて街歩きとともに実施した。 常設展示として、「映画化された小説」を会期中展示替えをして開設し、関連講座として、「三島由紀夫と映画」を「第5回三島由紀夫とアダプテーション研究会」との共催でオンライン開催した。			
令和5年度				
計画	福岡市文学館企画展については、これからの企画内容や実施方法などを含め、福岡市文学振興事業実行委員会に意見を諮りながら進めていく。 常設展示として、(上半期)「風よ—作品・書簡からみた伊藤野枝(仮)」、(下半期)「成層圏の時代—竹下しづの女と龍骨(仮)」および関連講座を実施する。 また、コロナ禍で停滞していた大学等外部機関、組織との連携事業を充実させ、文学館の認知度アップを図る。			
内部評価 (令和4年度)				
<p>コロナによる行動制限等の影響が残っている中でも、感染対策を講じながら企画展を実施し、関連講座なども含め、のべ3,816名の参加、観覧があった。</p> <p>常設展「映画化された小説」においては、延べ8,934名が観覧した。</p> <p>また、常設展示関連講座として、三島由紀夫とアダプテーション研究会との共催による「三島由紀夫と映画」をオンラインにより開催するなど、コロナ禍に対応した方法も実践した。</p> <p>さらに、例年実施されているミュージアムウィーク2022にも参加し、来場者増に努めた。</p> <p>過年度企画展のコンテンツ活用については不十分であったが、コロナ制限下でも様々な工夫をして事業を実施したことから、B評価とする。</p>				B
外部評価 (令和4年度)				
<ul style="list-style-type: none"> ・概ね計画通りに進んでいる。 ・せっかくの企画だったが、展示のインパクトが弱いように思う。マスコミ等への投げ込みに力を入れたいものである。 ・文学が好きで精通している市民のための展示だけではなく、これから親しむ若い世代でも楽しめるような展示も行ってほしい。 ・ぜひ継続して行ってほしい。 				A : 2 B : 3 C : 0 D : 0

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	図書館運営の強化		
内容	運営方法の検討				
事業計画	現在指定管理制度を導入している総合図書館および東図書館の成果を検証し、図書館の運営方法を検討します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	総合(建物管理のみ)、東(運営)				
	早良南(仮称)				
令和4年度					
計画	指定管理者への定期的なモニタリングを実施し、適切な運営に反映するよう努める。				
取組状況	総合図書館、東図書館、早良南図書館ともに、定期的なモニタリングを実施し、適切な運営に反映するよう努めた。 また、指定管理者の提案による様々な事業やイベントでもアンケート等による満足度を調査し、指定管理者による企画や取り組みが利用者にとどのように評価されているか、また利用に関する数値はどのように推移しているかなど、客観的な視点での検証も行った。				
令和5年度					
計画	指定管理者への定期的なモニタリングを引き続き実施し、必要に応じて協議するなど、満足度の高い、適切な運営に反映するよう努める。				
内部評価 (令和4年度)					
各指定管理者の事業報告やモニタリング等を基に検証したところ、総合図書館、東図書館、早良南図書館の各々の指定管理者が、一定の管理運営経験と実績を有していることもあり、安定的な管理運営で、利用者満足度も高く、適正な運営ができた。 計画どおり進められたことからA評価とする。					A
外部評価 (令和4年度)					
<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに進んでおり、内容も十分である。 ・指定管理制度のよい面が生かされており、モニタリングを的確に継続していけば、よい事例となるのではないと思われる。 ・今後も定期的に調査や見直しを行い、慎重に取り組んでほしい。 ・利用者の声など、外からの意見を積極的に聞いてほしい。 					A : 5 B : 0 C : 0 D : 0

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	図書館運営の強化		
内容	図書館ボランティアとの共働の推進				
事業計画	図書館サービスの充実と市民活動の場の提供を図るため図書館ボランティアとの共働を推進します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	活動内容の追加・実施				
令和4年度					
計画	新型コロナウイルス感染症の影響で、新規ボランティアの受け入れは困難。既に登録しているボランティアを継続して受入れ、図書館ボランティアとの共働を進める。(令和4年4月1日時点登録者数63名)				
取組状況	新規ボランティアの募集は行わなかったが、活動実績は2,208時間と前年度(1,564時間)から大きく伸びた。活動内容は「図書資料の修復」が1,722時間(78%)で最多、次いで「郷土・特別資料室に関する作業」が214時間(9%)となっている。				
令和5年度					
計画	ボランティア活動機会の増加を図るため、活動範囲の拡大について検討する。				
内部評価 (令和4年度)					
コロナ禍で新規ボランティア募集を抑制している中で、登録者数に対して活動時間は過不足ない状態であるが、コロナ前と比較すると活動時間は減少していることからB評価とする。(令和元年度2,542時間)					B
外部評価 (令和4年度)					
<ul style="list-style-type: none"> ・概ね計画通りに進んでいる。 ・図書資料の修復は分かりやすいボランティア活動であるが、市民との協働という意味では、他にさまざまあるのではないか。 ・本の修理などの他にも、図書館とボランティアが協働できる場はあると思う。他の図書館の調査を行い、検討してほしい。 ・これから活動が活発になることを期待。 					A : 1 B : 4 C : 0 D : 0

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	図書館運営の強化		
内容	職員の育成及び技術向上				
事業計画	利用者が心地よいと感じる図書館となるよう、図書館職員の接遇研修等を強化します。また、図書館職員として専門知識や技術の向上を目指し、各種研修を実施し、研修成果の情報共有を図ることで、図書館サービスの向上と充実を図ります。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	研修等の強化(分館での研修の充実)				
令和4年度					
計画	<p>全体研修については、福岡市職員、図書館職員としての基本となる研修のほか、防災研修など年間を通して計画的に実施していく。</p> <p>専門研修については、令和4年度以降も会場集合形式で開催されるものに加えて、インターネットを介したオンラインによるもの、または併用によるものなど様々な開催形式が考えられるため、有効に活用して積極的に参加し、各分館を含めた職員の専門知識習得に努める。</p>				
取組状況	<p>全体研修については、公務員倫理、人権、情報セキュリティ研修等の実施や、避難訓練等の防災研修などを実施した。</p> <p>専門研修については、文化庁の著作権に関する研修や県立図書館のレファレンス、資料整理保存などのテーマ別研修に随時派遣するとともに、オンラインによる講習等の受講を奨励し専門知識の習得に努めた。</p>				
令和5年度					
計画	<p>全体研修については、福岡市職員、図書館職員としての基本となる研修のほか、防災研修など年間を通して計画的に実施していく。</p> <p>専門研修については、令和5年度も会場集合形式で開催されるもの、オンラインによるもの、併用によるものなど多様な開催形式が想定されるため、有効に活用して積極的に参加し、各分館を含めた職員の専門知識習得に努める。</p>				
内部評価 (令和4年度)					
<p>予定した研修や最近、問題化している情報セキュリティについての研修を実施することができた。また、参加可能な範囲で専門研修への派遣を行ったことからB評価とする。</p>					B
外部評価 (令和4年度)					
<p>・概ね計画通りに進んでいる。今後は研修会の内容、参加者数などの詳細を記載してほしい。</p> <p>・全体的な研修はそれなりになされており、評価できる。専門性向上のために、職員自らテーマを設定するなどのシステムを構築することも検討すべきか。</p> <p>・レファレンス担当や児童担当など、高い専門性が求められる部署については職員の配置の配慮(配置換えを頻繁にしないなど)や研修の充実を予算確保の上、行ってほしい。</p> <p>・国立教育政策研究所社会教育実践研究センター主催の図書館司書専門講座や日本図書館協会主催の児童図書館員養成専門講座などへ職員(会計年度任用職員も含む)参加させてはどうか。</p>					<p>A : 2</p> <p>B : 3</p> <p>C : 0</p> <p>D : 0</p>

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	図書館運営の強化		
内容	施設の有効活用などによる財源確保				
事業計画	駐車場収入による財源確保に努めるとともに、寄付金収入等の増額方法について検討します。 また、デジタルサイネージや施設広告、施設の目的外利用等について、新たな収入確保を検討します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	駐車場収入による財源確保				
	新たな他財源	その他財源の確保			
令和4年度					
計画	駐車場の適切な運営や寄付金制度のPRに努めていくとともに、その他財源確保における手法等について検討する。				
取組状況	駐車場の運営について、駐車場用地の土地貸付収入等により、約370万円の歳入があった。 また、他都市等へも積極的なPRを行ったため、映画フィルム貸与料で約80万円の歳入があった。 このほか、ふくおか応援寄附が約400万円寄せられた。				
令和5年度					
計画	駐車場の適切な運営や寄付金制度のPRに努めていくとともに、その他財源確保における手法等について検討する。				
内部評価 (令和4年度)					
駐車場運営では前年度と差はほとんど出なかったものの、前年と比較して、映画フィルム貸与料で約70万円増、寄付金は約250万円増となった。 前年に比べて歳入額は増加したが、新たな財源の確保、その手法等については、引き続き検討が必要なため、B評価とする。					B
外部評価 (令和4年度)					
・概ね計画通りに進んでいる。新たな財源として、クラウドファンディングなども検討してはどうか。 ・財源の確保は急務である。単なる寄付を考えるのではなく、フレンドシップ制度などの導入など検討する必要があるのではないかと。図書館利用に際してのプライオリティの設定、神社などにある顕彰なども考えてよいだろう。 ・駐車場運営など、取り組みは評価できる。福岡市の人口は増え続けている。文化政策として、図書館の予算の増額が求められる。					A : 0 B : 5 C : 0 D : 0

令和4年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	情報発信の推進		
内容	情報発信の推進				
事業計画	引き続き、インターネット等を活用した情報発信に努めるとともに、新聞やミニコミ誌などのメディアへの働きかけを進めます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	検討	実施			
令和4年度					
計画	効率的で効果的な広報を目指し、ホームページおよびSNSの運用方法の見直しを含めた改善策を探りながら、情報発信を行う。				
取組状況	<p>図書館の開館情報やイベント情報等をホームページやSNSを通して発信した。また、パブリシティによる情報発信にも努めた(報道機関への資料提供数6件に対し報道又は掲載件数45件)。</p> <p>ツイッターは前年度よりも投稿回数を伸ばし526回でインプレッション数は612,394、また、フェイスブック241回でインプレッション数は18,423となっている。</p> <p>媒体ごとの登録者数は、フェイスブック426人、ツイッター2,319人、メルマガ589人と増加した。(昨年度フェイスブック298人、ツイッター1,298人、メルマガ512人)</p> <p>他施設と連携した広報を行う足がかりとして、市の文化施設の広報と面談し情報交換などを行った。</p>				
令和5年度					
計画	効率的で効果的な広報を目指し、ホームページおよびSNSの運用方法の見直しを含めた改善策を探りながら、情報発信を行う。また、市の文化施設を中心に、展示やイベントの連携を積極的に行い、情報の共有や拡散を行う。				
内部評価 (令和4年度)					
<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、制限が無い形でイベントなどが十分に実施できなかったことから、報道機関などへの資料提供は微増(5件→6件)にとどまったが、SNSによるメルマガ配信のお知らせや開館情報の発信、メディア取材時の相手方SNSを通じた広報依頼など、新たな形での情報発信を行った。SNSでの登録者も増えてきていることからA評価とする。</p>					A
外部評価 (令和4年度)					
<p>・計画通り進んでおり、内容も十分。フェイスブックでの「いいね件数」は少ないが、SNSは継続した情報発信が重要。</p> <p>・HPなどの運用については丁寧に、且つこまめになされており、評価に値する。イベントなどの発信をマスコミ等を利用して行っているのが具体的に見えないくらいがある。</p> <p>・様々な方法で情報を発信されており、評価できる。他の施設との連携に取り組んでほしい。</p> <p>・市関係施設のSNSとの連携(リポスト)などが必要だが、適度な情報量というのも重要だと思う。</p>					A : 5 B : 0 C : 0 D : 0